<table>
<tr><td>A
学
級
3
～
6
年</td><td>国
語
科</td><td>「読み聞かせをしよう」
教材名『はじめての　おつかい』
１１時間</td><td>概
要</td><td>◎児童の個別の目標
◎ワークシート
◎グループ別の音読練習
（メンバーや場所など）
◎読み聞かせの配役</td><td>適　○</td></tr>
<tr><td>手
立
て</td><td colspan="2">(１)学習環境
・黒板周辺の物や掲示物を少なくして、児童が授業に集中しやすい学習環境を整える。
・机と椅子にボールをはめ込み、椅子や机を動かすときに雑音が出ないようにする。

(２)指導方法や教材の工夫
ア　タイマー
授業の残り時間が一目で分かるので、児童が見通しをもって授業に参加できるよう用いる。

イ　板書について
学習の流れを黒板に示しておき、今行っていることを矢印で示す。１時間の見通しをもって活動ができるように、活動が終わったら花丸を付ける。

ウ　既習事項を教室内に示す
本時までに学習してきたことを教室の後ろ側に掲示し、児童がいつでも確認できるようにする。

エ　ICT 機器の活用
「買いものをしてみよう」（NHK for School）や、「さあ始めよう！自分でお買い物」（東京くらし WEB）の動画を参照し、買い物の注意点やポイントを事前に確認する。

オ　実物教材の活用
買い物で使用する材料の写真や模擬貨幣など、できるだけ本物に近い物を使用し、実生活に生かすことができるようにする。</td><td>児
童
の
様
子</td><td>・机や椅子を動かすときの雑音がしないので、児童が集中しやすい環境で学習することができた。

・タイマーを見ながら、授業時間に見通しをもって学習していた。

・授業の流れが分かり、児童が見通しをもって学習していた。

・過去に学習した内容を、教室の後ろ側を振り返って確認していた。

・動画で視覚的に確認することで、具体的なイメージをもつことができた。

・本物に近い物を使って練習することで、実際に買い物するときにも迷わず硬貨を出すことができた。
 </td></tr>
</table>

	カ　ワークシートの工夫 　児童の発達段階や障害特性、実態に合わせて２種類のパターンを用意して「学びの個別最適化」を図る。 キ　読み聞かせの役割分担 　音読や、他者の前で活動することに抵抗感のある児童のために、効果音で登場する自転車と自動車の役割をつくって、参加しやいように配慮する。 ク　マイクの活用 　発表の声が小さくなってしまう児童のために使用する。特に、音読劇では他者に見られることで極度に緊張する場合が考えられるので、念のため準備しておく。 ケ　気持ちカードの活用 　気持ちを読み取るのが苦手な児童や、語彙が少なくて気持ちをうまく言語化できない児童のために使用する。表情のイラストと気持ちが書いてあり、主人公の気持ちに近いものを選ぶことで、心情を読み取るときの支援とする。		・児童の実態に応じ、ヒントや記述量を調整したワークシートに取り組むことができた。 ・音読が苦手な児童や、学習に気持ちが向かない児童も自分から自転車や自動車の役割を希望して読み聞かせをすることができた。 ・今回の単元では、使わなくても読み聞かせをすることができた。今後も、マイクを使わなくても発表ができるという自信をもつことができた。 ・９月からＡ学級に転入した３・４年生の児童は、気持ちカードをもとに主人公の気持ちを読み取ったり、想像したりすることができた。
成果	・児童がこれまでに経験してきた買い物にフォーカスした教材を選んだことで、主人公の気持ちを読み取ったり、読み取った気持ちに即して感情を込めて音読をしたりすることができた。 ・単元のまとめとして、下学年に感情を込めて読み聞かせをして、成功体験を積むことができた。 	課題	・教材文の読み取りに時間がかかる。おおまかなあらすじを理解したり、教材文の内容を理解したりするのに時間がかかる。十分に時間をとって余裕をもって単元指導計画を作る必要がある。 ・児童が経験したことのある内容の教材文を探す時間がかかる。児童の実態に合う教材うまく探せないこともある。